

被爆70年のつどい ニュース No.2★

「被爆70年のつどい」実行委員会 〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-5 ゲイブルビル9F 電話 03-3438-1897

◇13:00～「まほうのたね」—F・パブロフ「茶色の朝」より—

作 山谷典子 演出 辻 輝猛

毎日の暮らしの中で感じる違和感。「でも何か言ってもどうせ変わらないし」と思っているうちに世の中はどんどんキナ臭くなっていく…? 「茶色の朝」を原案にした、親子で楽しめる音楽劇。

◇13:35～ メイン企画

「広島・長崎はなんだったのか?— 今を戦前にしないために」

『民主主義ってなんだ?』私には答えられない…」「私は被爆者の運動から民主主義を学んだのよ」

戦後生まれの若者が、被爆者と対話しながら、被爆の実相や被爆者の運動の歴史を、証言、写真、映像、音楽などを通じて知り、被爆者がまさに民主主義を体現する生き方をしてきたことを学び、自分なりの継承のあり方を考えていく。構成劇の中で次の方が証言されます。

◆「原爆」を背負い続ける被爆者の証言



岩佐幹三さん 日本原水爆被害者団体協議会代表委員

広島 1.2 kmで被爆 当時16歳 被爆当時のようすを語る

倒壊した家屋の下敷きとなって母が焼死。妹は第一県女一年生で、建物疎開作業中に被爆、行方不明のまま。



横山照子さん 一般財団法人長崎原爆被災者協議会理事

長崎 当時4歳 被爆者の戦後を語る

父は1.2 kmで被爆し重傷、母と妹は4 kmで被爆。妹はその後失明、戦後生まれの末妹も原爆症に。戦後親族を次々に癌で喪う。

◆ふたたび被爆者を作るな! 基本要件にこめられた思い



吉田一人さん 日本原水爆被害者団体協議会機関紙編集委員

長崎 3 kmで被爆 当時13歳 「原爆被害者の基本要件」にこめられた思いを語る

1980年から4年をかけて、「再び被爆者をつくらないために」を合言葉に、全国から寄せられた意見を一つ残らず反映させて「基本要件」は作り上げられた。

◆被爆者の運動が日本と世界の世論を動かす



藤森俊希さん 日本原水爆被害者団体協議会事務局次長

広島 2.3 kmで被爆 当時1歳 世界の世論の変化を語る

NPT再検討会議のNGOセッション、核兵器の非人道性に関する国際会議（ノルウェー、メキシコ、オーストリア）に参加、発言

◇15:15～ 合唱団この灯

◇15:30～ 多彩なリレートーク



杉山千佐子さん (100歳)

全国空襲被害者連絡協議会顧問
名古屋空襲で左眼失明。民間空襲被害者のために長年活動。



村上正晃さん

広島平和公園ガイド。国内外の観光客に若者の視点からヒロシマの過去と現在を伝える。



照屋仁士さん

日本青年団協議会会長・沖縄在住
沖縄から、戦禍の記憶を受け継ぎ、「今を戦前にしない」思いを語る。



柿沢未途さん

空襲被害者等の補償問題について、立法措置による解決を考える議員連盟事務局長。

富田彩友美さん (広島市立基町高校で被爆証言の絵を描く)

阿部のぞみさん (全日本教職員組合 青年部事務局長)

根本雅也さん (被爆70年調査企画者)

瑞慶山茂さん (弁護士、沖縄・民間戦争被害者の会顧問弁護士)

高校生平和ゼミナール

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

◇16:20～ 会場からの声

◇16:40～ 閉会挨拶 実行委員長 田中熙巳